

山寺ふるさと便り

＝第5号＝

宝珠のしずく

題字 後藤 仁 田
(性相院)

発行所 山寺公民館

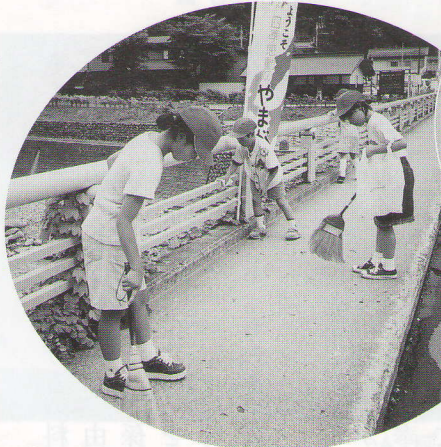
〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会



▲公園トイレ

山寺駅前▶



宝珠橋



＝山寺小・中学校＝

観光地山寺を
きれいに

力を合わせて「美化運動」

「私達の山寺をきれいにしよう」という趣旨で山寺小中、全校生による清掃活動が山寺のメインストリートを中心に年二回行われている。

昨年は六月二十八日と十月十六日に実施された。

主な清掃箇所は

○山寺駅周辺と駅のトイレ

○宝珠橋のらんかん

○緑地公園と公衆トイレ

○根本中堂

○山寺大駐車場とトイレ、等である。

班は地区毎の縦割で上級生が下級生に一つ一つついでに教えながらごみを拾い、トイレ内を拭ききもくもくと清掃に励む。その一生懸命な姿には心を打たれる。

児童・生徒らの声を聞いてみると「やる前は大変だなあと思うが、だんだんきれいになっていくと、とても気持ち良くなる。」

○観光客や地区の方から

「えらいわねえ、生徒さん、とてもたすかります。ありがとう。」

「ご苦労様、これからのがんばって下さい。」と、たくさん励まされ感謝の声を掛けてもらいうれしい。山寺の子供達は、奉仕の心が自然と身について大変すばらしいことだと感心する。

山寺の地主権現とも言われている
磐司磐三郎とは、いったいどんな人
だったのであろうか。



▲ 開山 慈覚大師尊影

山寺での伝説

- 1、磐司は猿の子である。
- 2、狩人（またぎ）であった。
- 3、居住地は千手院の、とある一角であった。（磐司屋敷跡とも弓かけの松付近とも言う）
- 4、対面石で慈覚大師（円仁）と面談し、山寺を仏教の聖地としたいという大師の熱意を受け入れた。
- 5、大師の佛国浄土建設に協力した。
- 6、動物達が大師にお礼を言ったところ、大師は、先ず磐司に礼を言いなさいと諭された。
- 7、その後、秋田の荒瀬（今の阿仁町）に去った。

その後わかったこと

- 1、猿の子伝説について

日光の伝説によれば、日光山の神と赤木山の神と戦いがあった時、磐司（或いは祖先）は日光方に味方し赤木軍の大将（大むかで）を弓で退治し、日光方を勝利に導いた。その功績によって東北一帯の狩猟を許可された。

磐司の祖先を尋ねてみると、皇室に連なる貴族で、磐司の父は猿丸大夫である。

- 2、住居について

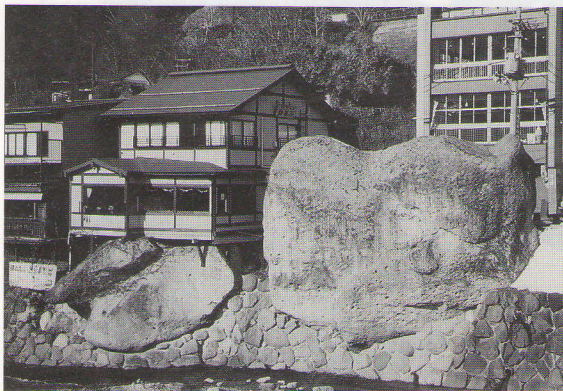
推測であるが、千手院のどこかであろう。現在磐司屋敷跡とされている所があり、近くに「磐司愛犬の墓」もある。

- 3、その後の磐司

秋田の阿仁町資料館を尋ねた。

を採る

▲ 磐司磐三郎の像



▲ 対面石



▲ 磐司愛犬の墓

そこには磐司伝説を裏づける資料と熊狩の用具、巻物（許可状、由来状）が残っている。磐司の子孫は明治のはじめまで、東北の山をめぐり狩をし、現在も近くで熊狩をしている。山寺にも秋田から狩人が来たという話が残っている。

- 4、ししおどりについて

いつの時代に始まったのか確かな資料はない。しかし、山寺に奉納されるしし踊りのししは、鹿ではなく猪であるとされ、先ずは磐司祀洞（五大堂上手）の前で御礼の舞を奉納するのが通例であった。

現在、磐司の功績をたたえて、立石寺では八月七日磐司を供養する読経がある。



▲ 磐司磐三郎の墓



▲ 磬 司 祀 洞



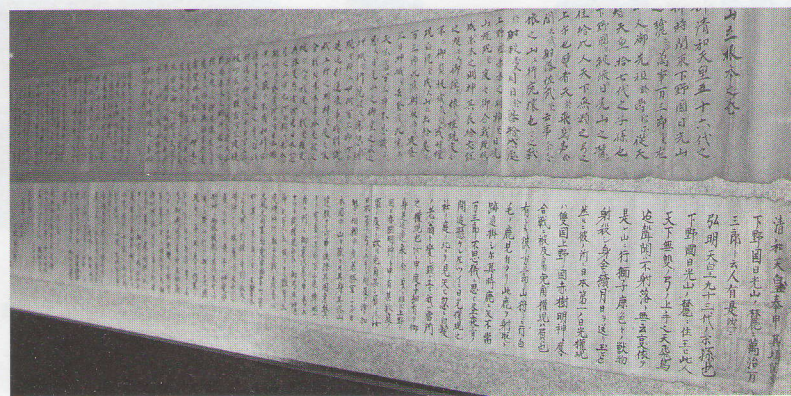
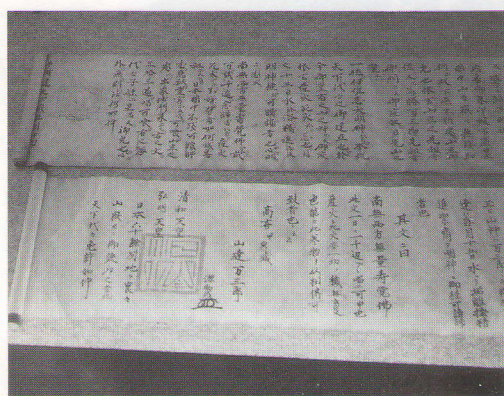
▲ 磬 司 岩



▲ し し 踊 り

山寺の地主権現

磬司磬三郎



▲ 阿仁町に伝わる巻物

研 こたま

宝珠のしずくに寄せて

私は、山寺中学校創立三十周年の頃お世話になりましたが、全地区こぞって実に力強い応援をいただきました。日本で一番いい辞書・辞典を各学年の教室に備え、奥の細道の山寺の段は全生徒が暗唱できるように努力しました。山寺の光輝く伝統を胸に……。

今、世の中は激しく変わりつつあります。ますます心と体を鍛え、①工夫・発明、そのための②ことば(英語ほか)の学習、③パソコンの操作などに、どんどんチャレンジしてください。

山形市 加藤 善一氏

「宝珠のしずく」四号の表紙をかざる「山寺物語」改めて当時を思い起こしました。全校全員で創り上げる楽しさと喜び……。毎回どこか違って、新しいことの連続が夢中になった理由。その中で「われらが山寺」という誇りが言葉ではなく体得できた事、今後も大切にしたいと思います。

山形市 斎藤 俊夫氏

▶「ふうが」子どもと手話合唱



地区総合文化祭

平成12年
(2000年)

地区ニュース

▶わたあめのサービス



山寺地区文化祭は公民館、山寺小中学校、老人保健施設サニール山寺、その他を総合したものとなった。会場は公民館と学校体育館を使用、それぞれ独自のイベント

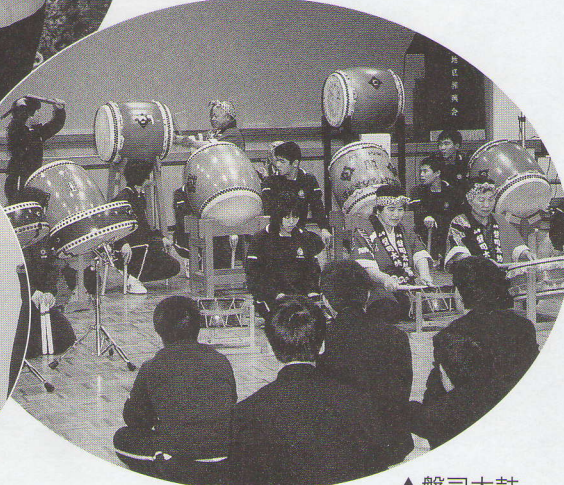


◀よさこいソーラン

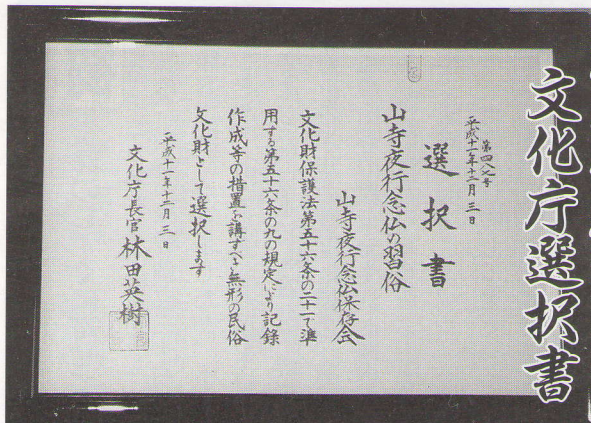
その他、作品の展示も両会場いっぱいに子供からお年寄りまでの秀作ぞろいであった。

「よさこいソーラン」も力強い演奏によって地区の人々を元気づけるものであった。その他、作品の展示も両会場いっぱいに子供からお年寄りまでの秀作ぞろいであった。

▲磐司太鼓 合同演奏



を盛り込みながらも地区民参加の融和を目指したものである。中でも学校会場では、女声合唱団「ふうが」と児童生徒との交流合唱、公民館では中学生と民俗芸能保存会との合同演奏「磐司太鼓」は圧倒的な迫力であったし、加えて、サニール職員による「よさこいソーラン」も力強い演奏によって地区の人々を元気づけるものであった。その他、作品の展示も両会場いっぱいに子供からお年寄りまでの秀作ぞろいであった。



夜行念仏

文化庁選択書

選択書

山寺夜行念仏習俗

山寺夜行念仏保存会

文化財保護法第五十二条の五で準用する第五十六条の規定により記録作成等の措置を講ずる無形の民俗文化財として選択します
平成十一年十二月三日
文化庁長官 林田英樹

武者人形展

(芭蕉記念館)



牛若丸と弁慶

山形大学調査実習打合わせ

(11月)



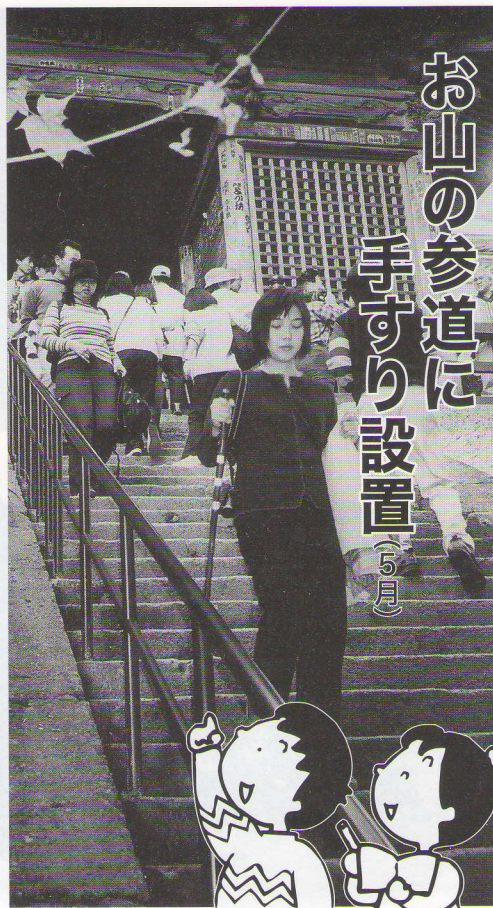
山寺地区生活実態調査続く

山形大学人文学部坂井教官とその学生による調査実習が続いている。正式には「文化人類学調査実習」と言い、山寺の各地区を尋ねて聞き取り調査をすることである。これまでに千手院・所部・馬形の調査を終り、続けて南院、川原町と全地区を訪れる予定である。参加学生は15名程度、5日間の日程で各町内の集会所に宿泊し、学生それぞれの関心ある問題について調べる。

地区の方々から親切にってもらって有難いと先生や学生の声。実りある業績をと、地区でも応援している。

お山の参道に 手すり設置

(5月)



「伝承の火」採火・リレー

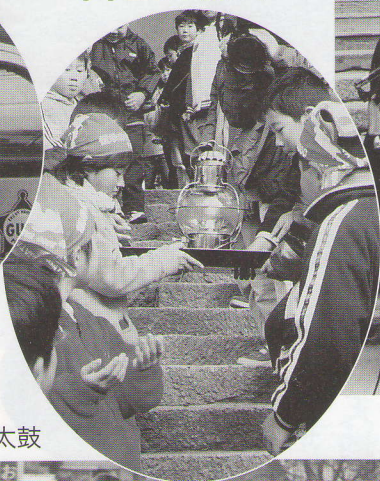
新世紀の世界平和を祈念し、これからの一千年間もそうでありま
すようにと「千年和鐘」を造ること
になった。山形市の事業である
その火種を立石寺根本中堂から採
火、その後リレーが行なわれた。

(11月16日)

▲根本中堂の火を市長へ



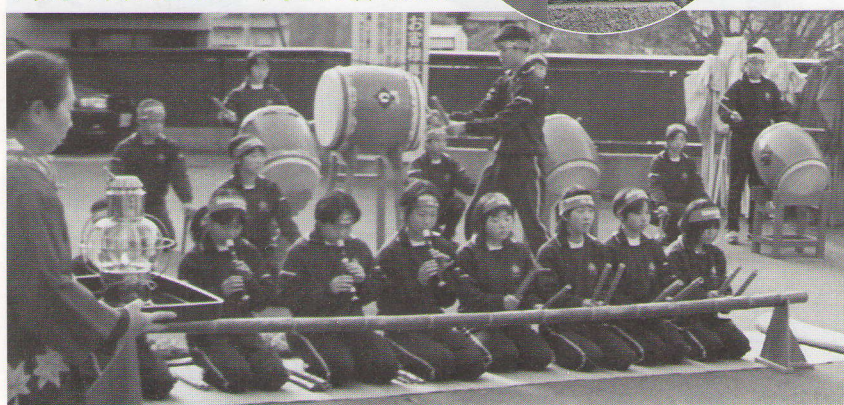
▼小学生の手渡し



▲オリンピック選手元木さんと



▼伝承の火を迎えて・中学生の磐司太鼓



「山の寺小屋」ならし運転中

山寺のことを学ばずば学ばず、探れば探るほど愛着が深くなるし、誇りと自信が湧く。これを基本にした学習会を推進しようという「山の寺小屋」が発足した。

12年には山寺中学生の奥山寺キャンプ生活体験に協力援助。日向袖山(馬口岩)から山寺の地形を見渡して、郷土の自然を学習。年末には書道クラブと共催して、書初め練習会を開いた。13年には天台の道ウオークラリーを計画し、現在その準備作業を進めている。その他にも多彩な案を検討中である。



▶ キャンプ体験

▼ 総括講話



▼ 植生観察



▲ くぐり岩前



書初め練習会

書道クラブ指導



あいさつ
あいさつ
平和の光
春待つ心
新しい天地
新しい天地
新しい天地
新しい天地

大師像を待つ磐司



芦沢の故柏倉勉さん製作の磐司磐三郎像が公民館に安置されている。

像の寄贈を受けた文化保存会では慈覚大師の御像製作をたのみ、磐司像と対にして、しかるべき所に堂を建てて安置し、山寺の由来を永く記念したいと願っている。

現在、製作者にあたつて打ち合わせ中だとの事である。これはいへんな大事業になると思われるが、その実現が期待されている。

ミニ情報 耳よりの話

○小耳にはさんだ事だが、山寺の山中に猪(いのしし)がいたけど
○遠藤佳祐君(小6)が全国卓球大会で第7位にランク、卓球誌に写真入りで紹介された。ビックリだなあオリンピックも夢じゃないぞ

○憲法記念日の論文で佐藤千夏さん(中3)が山形市最優秀賞、遠藤麻衣さん(中3)が佳作賞、山寺バンザイ

○芭蕉記念館で展示物の音声ガイドを始めた。やさしい解説だよ
○カメムシ異常発生、一升マスで三つも獲った人あり。それホント!?

山寺の文化財⑤ 火災建堂供養経

(高さ89cm 幅30cm)



現、観世音の西側に三〇二字の碑文がある。千手観音は慈覚大師の彫

刻で、浄財を募って殿堂坊舎をつくり、後の世に垂水観音を最上三十三観音巡礼札所第二番にした。(永享四年、五六八年前。)

延享元年三月七日火災により焼失し、延享三年五月五日復旧になった。八月吉日(観音縁日)を選び京都、音羽山、清水寺学頭が落成のため慶讃の導師をつとめた。供養の法要をなし且つ石碑を立て顛末をきざんだ。時、宝暦二年八月十七日立石寺学頭眞覺院法師鑑古書。(焼失から数えてこれまで二五七年がたつ。)

尚、石工は信州在池上円蔵である。

おらが地区 川原町

川原町は立石寺の麓、立谷川の北岸に位置し、昔は中院と呼ばれた山寺の中心的地区である。

町内会は南院と同じになっていて郵便局・JR山寺駅・駐在所・観光案内所・旅館等がある。五十三戸の街並みは立石寺門前町としてふさわしい風格があり、山寺観光の中心である。

宝珠山立石寺「山寺」は名勝と史跡の地として昭和七年、文部省の指定を受けている。史跡と名勝のダブル指定は山形県では山寺だけである。

これも慈覚大師円仁、俳聖芭蕉のおかげで、宗教文化・俳諧文学の伝承の地と言われ、今後の発展が期待される。

更に加えて風光明媚の地、奇岩怪石、老松巨杉、重要文化財を含む寺院堂塔、これを目あてに訪れる信仰者、観光客は年間70万人を超えている。

地区としてのこれからの課題は取り組み方や方向付けを明確にする事である。歴史的文化遺産をどう守るか、門前町の整備誘客対策、交通アクセス、散策路、土産品、食の提供等、21世紀を迎えて工夫を広く話し合い、発展策に一致協力、実現していきたい。

おめでとう

丹野さんご夫妻

(宮崎)

金婚さん



新婚さん

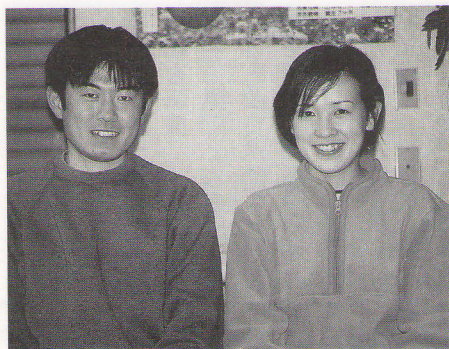
小笠原さんご夫妻

(馬形)



丹野 伸 作さん
きくのさん ご夫妻

師走も押し迫った日の夕方丹野さん宅を訪れた。妻のきくのさんは中地蔵の成山家から大郷の丹野家に昭和二十四年十二月二十日に嫁がれました。当時の丹野家は大家族で多忙だった為入籍してもらえず、昭和二十五年七月二十日に山寺に居を構えた時山寺村役場で入籍しました。二人の娘さんにも恵まれ、それぞれよそに嫁がれているが、現在お二人とも元気に過ごしておられます。「何も言う事のない人でした。」もちろん今も、と伸作さん、「優しい人です。」ときくのさん。うらやましいご夫婦でした。



小笠原 寛 智さん
真 紀さん ご夫妻

二人の出会いにはスノーパーク面白山。第一印象は「かわいい」の一言きさくで話しやすく明るい人です。長い人生、互いに気をつかわないで何でも話し合える家庭を築いていきたいです。子どもは3人位ほしいなあ。(寛智)

「若い人もいるんだなあ。」とスキー場で。素朴でやさしく、ボード乗りにも何度も連れていってくれました。お互いに自立して生き生きとした明るい家庭を作っていきたいです。(真紀)

見つけ合いながら話をしてくれた二人にあてられっぱなしでした。輝く未来に向かって幸せに!!

話題の人

布施 さく のさん

(宮崎)

(大正十年生 第一宝珠会々長)

生涯学習者



さくさんのさんは置賜小国の山奥の生れ、小さな小さな分校で小学校卒業。それから学習との奮闘が始まる。学問への憧れ止まず、単身山形に出てほとんど独学で看護婦の資格を得、東京の病院に就職した。戦時中として過労がもとで喀血、帰郷する。その傍ら養護教諭の資格を取り学校に務める。夏休みなども連日講習会参加であったとの事。

退職後、三味線、民舞を習い、仲間とタイやアメリカ公演に参加、良い思い出と話す。

平成十二年三月老人の主張発表会で優秀賞受賞を始めボランティア活動に精励、地区老人クラブ連合会の会計も担当しておられる。

表彰・受賞 (敬称略)

国勢調査員感謝状

後藤 哲夫
増子 敬一郎
遠藤 貞雄
遠藤 弥右エ門
結城 栄
原田 忠
布施 義弥
遠藤 和彦
(故)武田 和雄
山形市農業委員会々々長感謝状
後藤 哲夫
山形市老人クラブ会長感謝状
布施 さくの

山形市産業振興功労表彰 (褒賞状)

矢萩 政美
県民有林間伐コンクール収益性部門
優良
後藤 安之助

交通安全緑十字銅賞

小野 匡義

山寺写真コンテスト

最優秀賞 山田 廣美

誕生おめでとうおめでとう (平成十二年)

所部 武田篤哉氏長女 爽希さん
馬形 増子英樹氏長男 大稀さん
川原町 小笠原政彦氏長男 涼さん
笹原一浩氏次女 明楽さん

川原町 今井孝二氏次女 光里さん
芦沢 柏倉公一氏長女 千夏さん
" 次女 彩夏さん
" 伊澤 彰氏長女 彩香さん
" 原田正義氏次女 珠雨さん
中地蔵 富樫真一郎氏次女 まいさん

平成十二年の物故者
謹んでお悔やみ申し上げます

千手院
後藤 しる殿
所部
・三澤たまえ殿・武田秀次郎殿
・武田 なを殿
川原町
・武田まする殿・柏倉 静江殿
・武田やすの殿・遠藤 正殿
南院
・新関庄五郎殿
芦沢
・柏倉長四郎殿・山田善兵衛殿
・伊澤 実殿・堀川 とづ殿
・柏倉 勉殿
宮崎
・布施 むめ殿・後藤よしの殿
地蔵堂
・布施 善殿・矢萩 なを殿
・武田 和雄殿
中地蔵
・武田 きよ殿・富樫 きる殿

山寺地区振興会の主な活動

要望活動では、市に対して20項目、県に対して17項目にわたって地区の課題を陳情。これを受けて市・県では担当課による現地視察を実施して改善・改良が図られ、例年以上の効果をあげることができた。まちづくり関係は、赤石住宅団地の造成に向けての進展・追分花壇の4年連続高位入賞・みどり基金を活用したボランティア緑化「芭蕉記念館俳句の道」にアジサイ植栽等を行った。

編集後記

二〇〇一年となりました。今年は大雪で皆さん大変な苦勞をなさった事と思います。しかし気象庁は百年余りの観測史上、平年より〇・七四度高く、気候の変動、都市化の影響等で地球の温暖化が続くといえます。

第五号をお届けいたします。取材等にご協力下さった方々に厚くお礼申し上げます。この度の記事に対し、何かお気付きの事などありましたら、公民館までお寄せ下さい。

編集委員

後藤哲夫・伊澤貞一・武田俊昭
武田 誠・遠藤まき子